

## 「家族が語る もうひとつのハンセン病史」

2019年12月14日（土）

（1人目）

エルソン・ディアス・ダ・シウバ（ブラジル 第二世代、回復者団体 MORHAN）



エルソン・ディアス・ダ・シウバ氏

皆さま、こんにちは。エルソン・ディアスと申します。ブラジルのハンセン病問題の当事者、回復者支援ネットワーク「MORHAN（モハン）」のコーディネーターをしています。

本日はブラジル政府の強制隔離政策についてお話しをします。ブ

ラジル政府はその政策とハンセン病を理由に家族をバラバラに引き離したことによって二重の罪であると私たちは主張しています。私たちが取り組んでいるプロジェクトは「生存している親の孤児たち」と呼ばれています。「孤児」と言われた子どもの親は、まだ存命だったからです。

まもなくブラジルでは、州レベルではもちろんですが、財務委員会内の協議を経て、家族から引き離された子どもたちを経済的に補償するための州法が可決されようとしています。私はその補償の対象となる、親が生きているのにも関わらず孤児となってしまった子どもたちの歴史についてお話しをしたいと思います。

写真①に見られる通り、この子たちが当時のブラジル政府の強制隔離政策によって親から引き離された子どもたちです。



写真① 引き離された子どもたち

ヴァルガス政権時に最も強力であった当時の隔離政策によって、ハンセン病として診断、または疑われた親は隔離施設に送られ、一方子どもたちは孤児院に連れて行かれました。それは1920年代に始まり1980年代後半まで施行された政策です。

隔離政策は連邦法610条として1949年1月13日に施行されました。それによると、「レプラ感染者として診断された親の子供は強制的に直ちにその親から引き離されなければならない」。

モハンは孤児となった子どもたちの状況をブラジル全土に渡って調査を行い、また2010年8月19日に首都で開催された公聴会を通じて、情報を集計し、孤児の行方を追跡しました。このイベントは大統領府、人権省、保健省等、また連邦レベルの一般市民の参加を得て実施されました。それ以来数多くの公聴会が公の施設で行われています。

私たち親から引き離された子どもたちは、2002年から戦っています。以前は私たちの問題を取り上げてくれた他の社会運動や組織とも活動をしましたが、何も進展しませんでした。「生存する親の孤児たち」の多くが路上で暮らさざるを得ない状況を見過ごし、自分たちの利益のために私たちの歴史を利用しました。路上で暮らす「孤児」たちは緊急に住居と健康面で援助が必要です。

したがって私たちはどこの団体にも属さず、個人と個人が有機的に繋がり、連邦ならびに州の検察当局に、この問題を法的に取り上げるように働きかけました。私たちを代弁する機関はブラジルではモハンだけです。

表①は、1960年代にブラジルにあったハンセン病感染予防施設のリストです。

子どもを感染予防施設に入れるということも、政府によって強制されていたことです。

この感染予防施設は、子どもたちにとって、唯一の救いであったともいえるかもしれません。親が療養所に収容されると、子どもの面倒を見てく

表① 1960年代ブラジルの感染予防施設

ESTADO	MUNICÍPIO	PREVENTÓRIO
ACRE	Cruzeiro do Sul	Educandário Cruzeiro do Sul
RONDÔNIA	Porto Velho	Educandário Belisário Pena
ACRE	Rio Branco	Educandário Santa Margarida
ALAGOAS	Maceió	Educandário Eunice Weaver
AMAZONAS	Manaus	Educandário Gustavo Capanema
BAHIA	Salvador	Educandário Eunice Weaver
CEARÁ	Fortaleza	Educandário Eunice Weaver
ESPIRITO SANTO	Vitória	Educandário Alzira Bley
GOIÁS	Goiânia	Educandário Afrânia de Azevedo
MARANHÃO	São Luiz	Educandário Santo Antônio
MATO GROSSO	Campo Grande	Educandário Getúlio Vargas
MINAS GERAIS	Araguari	Educandário Eunice Weaver
PARÁ	Bélem	Educandário Eunice Weaver
PARAÍBA	João Pessoa	Educandário Eunice Weaver
PARANÁ	Curitiba	Educandário Curitiba
PERNAMBUCO	Recife	Instituto Guararapes PIAUÍ
PIAUÍ	Parnaíba	Educandário Padre Damião
IO DE JANEIRO	Niterói	Educandário Vista Alegre
GUANABARA	Niterói	Educandário Santa Maria
RIO GRANDE DO NORTE	Natal	Educandário Oswaldo Cruz
RIO GRANDE DO SUL	Porto Alegre	Amparo Santa Cruz
SANTA CATARINA	Florianópolis	Educandário Santa Catarina
SÃO PAULO	Carapicuíba Jacareí São Paulo	Educandário Santa Terezinha Educandário Jacareí Creche Carolino Mota e Silva
SERGIPE	Aracaju	Educandário São José

れる人はいなくなったからです。病気に対する恐怖、そして今よりさらに強かった偏見のために、残された子どもを引き取ろうという親族はいませんでした。両親から感染予防施設に引き離された子どもたちの入所記録が残っています。

先ほども申し上げた連邦法610条により、ブラジルではハンセン病患者は強制隔離されますが、隔離されたのが、ハンセン病療養所およびコロニーでした。この同じ法律により、ハンセン病患者の子どもたちは養子に出されることとなり、数千家の家族がバラバラになりました。この状況は、ハンセン病療養所が一般的な総合病院へと転換した1986年まで続きました。

家族の成り立ちやその状況や権利に対する配慮はありませんでした。ハンセン病の治療法は確立されておらず、まともな治療もされていませんでした。患者は、生まれたばかりの子どもを養育施設に送られるのを黙ってみている他ないという厳しい現実を生き抜かなければならなかつたのです。モハンは、このように誰の目にも止まらず、苦しんで生きていた人たちの権利のために生まれました。

患者たちの子どもが「落とし子」といわれるのは、このような背景があったのです。

リタ・デ・カシアさんという、子どもを引き離された58歳の女性の言葉を紹介します。「ハンセン病による親子別離の歴史を明らかにすることによって、二度とブラジルの家族が1つの疾病によって強制的に引き離されないことを願います」。

モハンは1981年の6月6日の設立された非営利組織です。その活動は啓発活動と効果的な公共政策の構築を通じてハンセン病の撲滅を目指します。モハンはハンセン病患者とその家族の人権と尊厳のために戦います。この活動は主にボランティアによるものです。

モハンの使命と目指すものについてお話しします。私たちの使命はハンセン病の正しい知識が普及し、社会の中でハンセン病が一般的な病のひとつであり、完治し治療可能な病気であると社会に理解され、差別と偏見をなくすことです。目指すのは、ハンセン病に関する情報センターとして、ハンセン病回復者をサポートし、治療と人権を尊重するブラジルです。

親から引き離された子どものための、民事訴訟を起こしました。訴訟の狙いはブラジル政府に隔離政策についての責任を認めさせることです。私たちはハンセン病に関する全ての記録の開示、補償金の支払い、保健に関する法の立案、心理学及

び精神病理学的治療を提供すること、ハンセン病制圧の政策を採用すること、5つのメモリアルセンターの設立、医療教育の中で親と引き離された子どもたちの歴史を教えること、また連邦法定に補償を強制するための暫定的な措置を求めます。

モハンはブラジルでDNA検査を行い、それによって離ればなれとなった親子を探し出すことが出来ました。写真②は、家族と再会する様子を捉えた写真です。

「ひとりの力よりも、全員が共にあることの方がより良い」という標語を紹介します。

以上となります。ご拝聴ありがとうございます。

(翻訳: Carlos Alberto Abelheira da Silva [カルロス・アルベルト・アベレイラ・ダ・シウバ]、吉國 元)



写真② 引き裂かれた家族の再会